

農福連携セミナー

農福連携からひとりひとりを想う

社会福祉法人ゆうゆう理事長
北海道医療大学 理事 客員教授
大原 裕介

北海道 5市町村・東京都文京区における事業展開

当別町

法人本部の所在地

当別町・北海道医療大学と連携のもと、住民同士が支え合いによる共生型地域福祉の事業

江別市

江別大麻エリアで、重度障害児者の地域生活支援システムの構築及び商店街活性化事業

苫小牧市

指定管理による地域共生型拠点と図書館を融合させた交流サロンと社会的サポートが必要な子どもの第3の居場所事業

岩見沢市

岩見沢市と連携のもと、空き店舗の常設ギャラリーの展開など障害者の芸術文化推進事業

和寒町

特別養護老人ホーム建て替えを契機とした福祉を越境した「まちづくり」事業の和寒町・地域住民・設計事務所と協働によるプランニングおよび推進事業



東大U – gohan



北海道お米と汁
gohan
東大正門

北海道お米と汁
dog

コロッケ
野菜の豚汁付
¥680

米とザンギ
¥680

米と魚

米と魚



厚田町総合福祉センター

ゆうゆう24

北海道医療大学ボランティアセンター

厚田川

大学生によるインフォールムサービスの展開

障害児者支援からあらゆる住民を対象とした共生型支援への発展

- 空き店舗を活用したボランティアセンター
- 当別町における障害児者社会資源が不足
- 学生任意レスパイトサービス事業の設立
- 地域を社会資源とする事業展開
- 障害児者支援から共生型支援への発展
- サービス受益者がサービス提供者に
- 0歳から96歳までのサービス
- 住民が住民を支えるシステムの創設
- 3年間の活動を経てNPO法人を起業

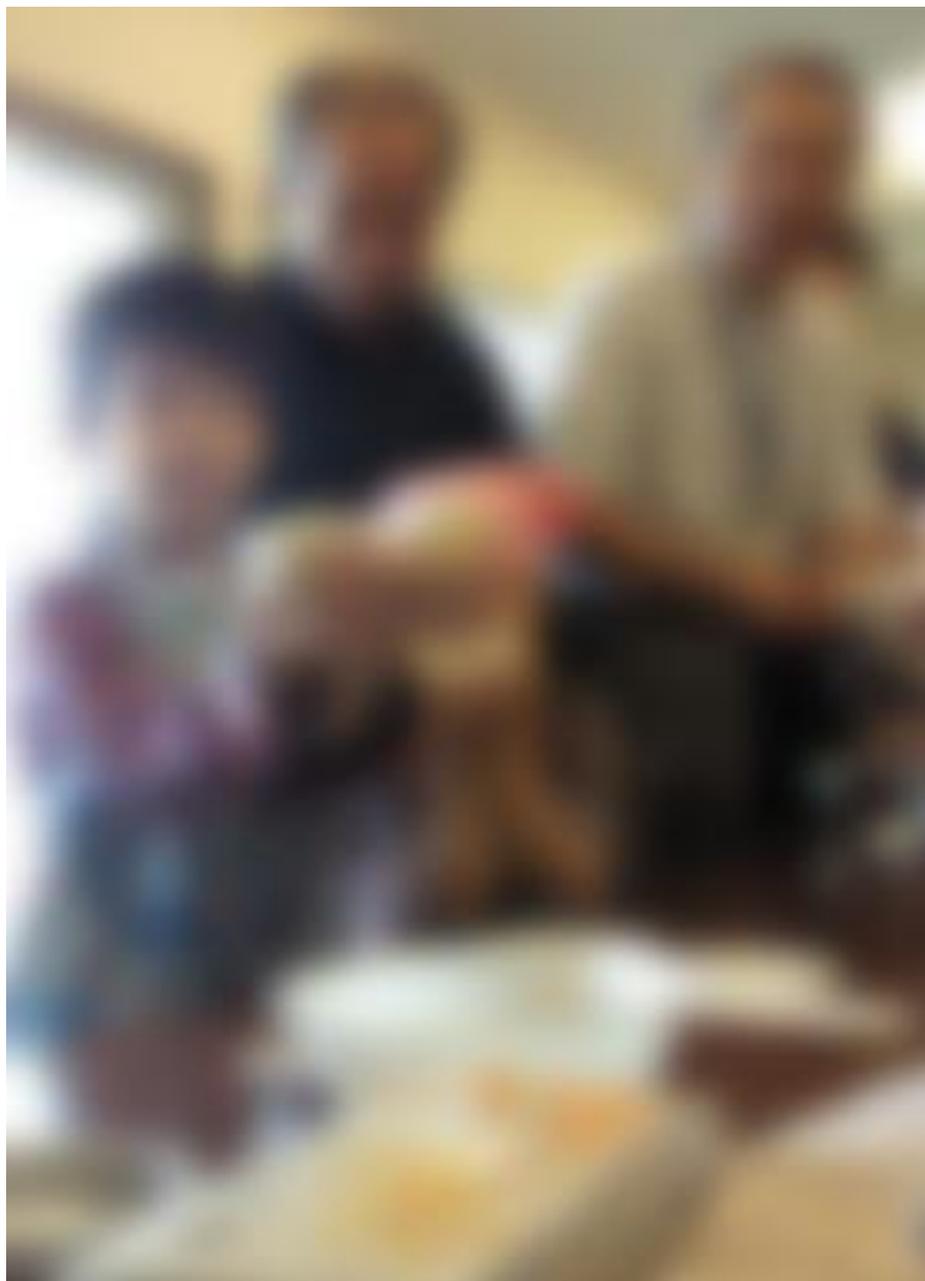






和食の味

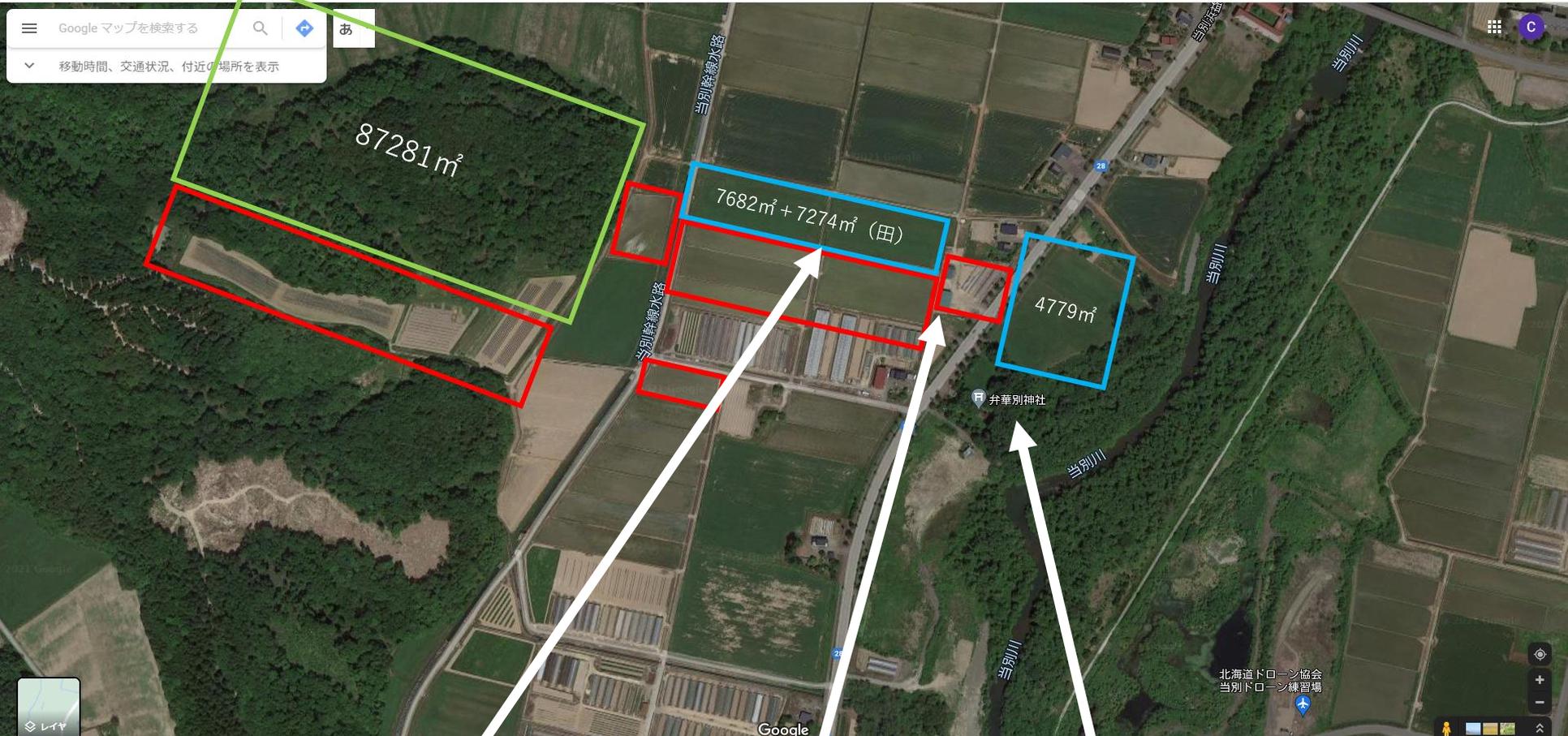








農業と林業と福祉









いっしょに、もりとあそぼう



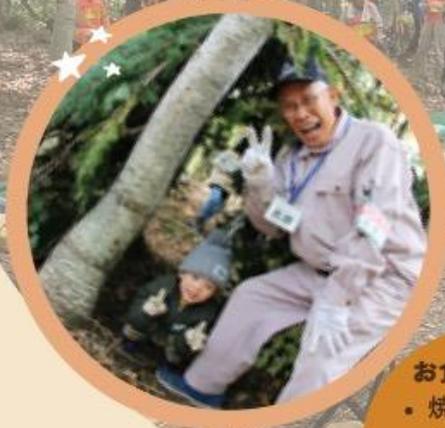
定員 80名

小学生以下のお子様は、
保護者様同伴でお願い致します。
大人のみなさんの参加も大歓迎です！

参加費 500円

第4回

森とくらす



- お食事メニュー
- ・焼きおにぎり
 - ・豚汁
 - ・ウィンナー
 - ・焼きマシュマロ

持ち物

- 汚れてもいい服
- 暖かい服
- 水分・帽子・軍手
- 森を歩ける靴

日時

11月2日土曜日 11:00～13:00
(雨天中止)

会場

野布瀬の森 自然に生える木を大切に育て、何年何百年と続く森へと育てることを目指しています

集合場所

野布瀬農園倉庫 当別町弁華町63
※駐車場満車の場合
弁華町会館 当別町弁華町58-6 (野布瀬公園まで徒歩5分)

問い合わせ
はこちら

にしごおり

☎ 090-9522-8478

やまさき
☎ 080-8280-9776

あらゆる住民の居場所となる農業とは



私たちの農業のステークホルダー

子どもたち

高齢者・認知症の人

ひきこもりの人

生活困窮者の人

障害のある人

大学生

農業者

デイサービスを拒否する若年性認知症の方の物語

- ・ 若年性認知症になったことによって仕事を失い、家族との縁も切れる
- ・ デイサービスを勧められるも「こんなところにいたくない。もっと働きたい」と希望
- ・ 表情も硬く、心を閉ざしている様子
- ・ 職人として父としてのぽっかりを埋めることができるのか？



地域の人たちと営む農業が居場所となっていく

地域に暮らす農業サポーターの方を仲間に「農業をみんなでやるのが好き」
参加されるたびに「今が一番楽しい！」作業が遅くてもそばで気にかけてくれる



居場所が彼をリカバリーしていく

- ・ 農作業をしている表情がどんどん柔らかく
- ・ いつもYシャツを着てこられるように
- ・ 彼を中心に輪ができ、帰り際にみんなに手を振って挨拶される



はたらくのその先に

工賃は、大好きなお酒とタバコに
お仕事中の写真を娘さんに送ると父に会いたい
Yさんが本人らしく暮らすとは



さらさらな土を仕立てたい欲求が仕事になる





畑にくると土の上に飛び込んでしまう

「今日は畝にぴったりはまってるね」
つなぎに込めた思い
なぜ畝に入るのか、土をいじるのか
仕事をするということを本人はちゃんと理解している
待つ

